

1954.7.24
T(2)

鯖

漁場調査を終る

星野技師等 政府へ中間報告

この八日、琉球政府との提携で琉球近海鯖漁場調査のため、調査船鶴丸(二二三ト)を馳せて米島した長崎県水産試験場星野技師ら八丸二週間の調査を終えて二十三日午後五時泊瀬から帰郷の途に上った。星野技師等は近く調査結果をまとめて琉球政府にも報告するが、帰郷にさきとち次のようにがい要を伝えている。

星野技師隊一尖閣列島から宮古群島一帯の水域を調査したが、この水域の表面水温は二七・六乃至二九・九度で沖繩列島より

高く、大陸棚に低く、約〇氏一五度の地域差がみられた。黒潮は沖繩列島沿いに宮古島付近から久米島西岸に北東流する

ものと、魚釣島付近から支那大陸に向けて北流するものがあり大陸沿岸から八咫以下で冷い水が南下する傾向がみられ大陸

棚上では黒潮といれる寒流が
出会うことになり、この割境い
では二八・五度前後の水温がは
かれた。魚群を発見したのは北
緯二七・三六度―東経二二五・
〇九度、北緯二七・二六度―東
経二二三・一六度、北緯二六・
二四度―東経二二三・五二度の
付近水域(いずれも尖閣列島近
く)で最も多かつた。しかしこ
の水域の漁場価値については調
査(魚群の滞遊期間、その他の
生態的調査)は今後引き続き行う
必要がある。沖繩付近の鯖漁場
の海洋構造は今回の調査である
程度明らかになったものと考え
る。

なお長崎県では昨年から五カ年計
画で東支那海一帯の鯖漁場を調査
してきて、決定的な調査結果はこ
の年次計画を全部完了しなければ
できないように、星野技師等は
来る十月と十一月頃と、今年中に
もあと二回の調査を予定している
又今回の調査結果では鯖群の棲息
場所ほ前述の暖寒流が合流する水
温二八・五度の一帯だと考えられ
てゐる。